

医療観察ニュースレターとっとり

第15号(令和5年度版)

<発行> 鳥取保護観察所社会復帰調整官室

〒680-0842 鳥取市吉方109 鳥取第3地方合同庁舎内

電話 0857-22-3518 FAX 0857-37-0498



犯罪や非行を防止し、立ち直り支える地域のチカラ
第73回 社会を明るくする運動



内容	
1	巻頭言
2	ピアサポーターを含む多職種で支える 地域移行・地域定着支援について
3	令和5年度医療観察制度地域連絡協議会 ～医療観察制度における家族支援について～
4	令和5年度地域定着支援に係る関係機関等連 絡協議会
5	編集後記

1 巻頭言「医療観察法の成立当時を振り返って」

鳥取地方検察庁検事正 杉山 徳 明

医療観察法は20年前の平成15年7月10日に成立しました。私は、当時、法務省刑事局に勤務し、厚生労働省、法務省保護局の担当者とともに、法案の国会審議対応や、成立後の施行準備に携わりました。法案には根強い反対意見があり、国会での審議は、1年以上にわたり、衆参両院で70時間を超える審議が行われました。議員等への法案内容の事前説明や、委員会審議の前日には徹夜で参考資料の作成等に従事しましたので、成立した時の安堵感は鮮明に覚えています。

成立後は公布後2年以内の施行に向けて、厚労省や保護局担当者との打合せを始めました。裁判官と医師による合議体による審判、指定医療機関での入通院医療、社会復帰調整官による精神保健観察の導入等いずれも既存の制度にはない新たな枠組みが導入されることとなり、2年で準備が整うだろうか、施行後スムーズに運用されるだろうかという漠然とした不安を感じていました。もっとも、間もなく検察の現場に異動となり、以後、医療観察法に携わる機会はありませんでした。

今回、改めて運用状況を確認したところ、令和3年末までの地方裁判所の審判の終局処理人員総数が5,715人（入院決定3,932人、通院決定702人、医療を行わない旨の決定866人等）、令和4年末までの精神保健観察事件の終結件数が3,096件（厚労省、法務省HP）等、多数の事案が円滑に処理されてきたことを知りました。一つ一つの事案それぞれに司法、医療、福祉その他多数の方々に関与されており、「対象者の病状の改善及びこれに伴う同様の行為の再発の防止を図り、もってその社会復帰を促進する」という法律の目的達成に向けて、相互に協力してその職責を遂行していただいた成果の集積がこの数字なのだと思います。法律制定当時の私の不安が杞憂に終わったことを大変うれしく思うとともに、関係者の皆様には引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



今回は、ピアサポーターを含む多職種で精神科長期入院患者さんの退院支援等を実施している医療法人養和会養和病院の取組みについて御紹介します。



2 ピアサポーターを含む多職種で支える地域移行・地域定着支援について

医療法人養和会 養和病院

ピアサポーターとして働いて

医療法人養和会 養和病院地域連携室
ピアサポーター 二宮 康



私は現在、精神科を診療している養和病院で「ピアサポーター」として働いている。試用期間の終わったある日、精神療養病棟での相談業務に当たってほしいと言われた。

「これから病棟に入り、利用者さんの退院を進めるのに、色々話しを聞いて下さい」と話しがあつた。病棟では約60人の利用者さんが入院。中には10年や20年入院される方々もいた。

私は10時半までに地域連携室に出勤。前もって利用者さんの情報収集をして病棟まで上がる。作業療法プログラムに利用者さんと共に参加し、昼食前に降りて記録を書いて退勤。記録では、利用者さんの相談事などをまとめたり、私の感想などを記録した。

当時、短時間の仕事でも1日病棟に居るように感じ、持ち場から離れても、その事がいつまでも頭から離れない事が続いたことを覚えている。しかし利用者さん関わるうちに、過去の事を話す方々、自分の好きな趣味(スポーツ中継など)を話して下さる方々がいることが分かった。また、利用者さんに関わるほど話が膨らむかという、そうとは限らない事も痛感した。

外出や施設見学を一緒に共にする機会もあった。いつもと声色・表情が変わることが分かり、病棟に居ると普段話さない事を話してくれる利用者さん方がいた。こちらから聞いても、病棟では言えない、言わない事が多くあると思う様になった。

ピアサポーターとして道は始まったばかりである。自らが何ができ、何をするかということを考えながら一歩ずつ歩んでいきたいと思う。

最後に、初めての事だらけで戸惑う日々だったが、病棟の利用者さん方には色々教えて頂き感謝している。

養和病院でのピアサポーターの取り組み

医療法人養和会 養和病院地域連携室
精神保健福祉士 多田 博貴

医療機関で当事者サポーター（以下、ピアサポーター）を雇用し地域移行、地域定着に携わることは十数年前にはとても考えられないことだったと思います。もちろん当院も当事者が「支援者」として、専門職の中に入ることで体が未知なものでした。

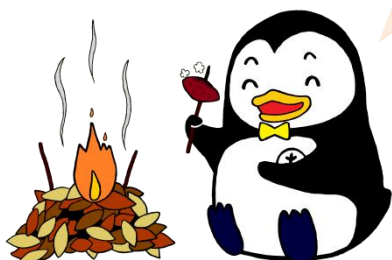
当院のピアサポーターが活動を開始したのは令和3年1月。国モデル事業を活用して、初の試みが始まりとなりました。もちろん当初は病棟に「支援者」として当事者が入るので、職員は「どう接すればいいか」「どんな仕事をしてもらったら」など多くの戸惑いが生じていたことと思います。しかしこの戸惑いは誰もが新しい環境が始まった際には生じる、ごく自然なことで、時間が解決してくれるものと感じていました。とは言ってももちろん導入前の下準備は必要です。「明日から雇用が始まります」だけでは、混乱が生じ、ピア活動の足枷となることが考えられるからです。幸いにも当院では下準備のかいもあり、大きな混乱も生じず、ピア活動が開始できました。

当院での活動当初は病棟での「退院支援」に関わるアドボケートでした。長期入院の方が多い病棟でしたので、普段スタッフに話すこととは違う、「今後の希望」など活動を通じて、よき仲介役となり、新たな気づきを促してくれたと感じています。

ピア活動はまだ始まったばかりです。当院では病棟の地域移行支援からピア活動を開始しましたが、それだけが病院での役割ではないと思います。現在当院のピア活動はデイケアに活動場所を移し外来支援を開始しています。ピア活動は可能性が多く、歩き始めたばかりであると思います。今後も一歩ずつ確実に歩みを進めることができるように、ピアサポーターの伴走者として、歩んでいきたいと思っています。

二宮さん、多田さんありがとうございました。今後のピアサポーターの活躍が楽しみです。

当たり前のことですが、ピアサポーターという職種の立ち位置や役割が明確ではなく、人数も少ない現時点においては、ピアサポーターを受け入れる準備や配慮がとても重要だと改めて感じました。



3 令和5年度医療観察制度地域連絡協議会

～医療観察制度における家族支援の現状及び課題について～

令和5年7月27日、「医療観察制度における家族支援の現状及び課題について」をテーマとして、令和5年度医療観察制度地域連絡協議会をハイブリッド形式（参集＋ウェブ）で開催しました。社会医療法人明和会医療福祉センター相談支援センターサマーハウス影井施設長を講師として、医療観察制度に携わる地域の関係機関の方々と鳥取県の医療観察制度における対象者の家族支援の現状及び課題について共有した上で、医療観察制度における家族支援のあり方について検討しました。

医療観察制度における対象者の家族は、加害者家族、精神障害者の家族（支援者）、被害者など、様々な側面を持つ複雑な立場に置かれることがあります。また、家族の回復には、立場の複雑性も影響し、長期間の関与が重要であり、関与できる期間が限られている保護観察所だけでなく、地域の関係機関が協力して長期的に関与し続けることが求められます。

今後も、他県の状況を参考するなどしながら、地域の関係機関が継続的に関与できる体制について検討し、家族支援に取り組みたいと考えています。



4 令和5年度地域定着支援に係る関係機関等連絡協議会

令和5年10月3日（火）及び同月24日（火）に鳥取刑務所において、令和5年度地域定着支援に係る関係機関等連絡協議会を開催いたしました。本協議会は、「高齢者又は障害を有するため福祉的な支援を必要とする矯正施設出所者等の円滑な地域生活定着支援事業を図ること」を目的に、鳥取刑務所と鳥取県地域生活定着支援センターと共催して毎年行っているものです。

医療観察制度の対象者は、矯正施設出所者等ではありませんが、障害を有するために福祉的な支援を必要としている点では共通しており、その社会復帰には地域の関係機関の皆様の御理解と御協力が不可欠です。本協議会では、参加者から「情報の共通認識、同じ方向を向いての支援体制づくりが重要になってくると思います。」といった感想が出るなど、今後の連携に向けて有意義な会となりました。

様々な理由で医療や福祉的な支援を受けることができず、生活が成り立たなくなり、結果として犯罪や他害行為に至ってしまった方が多くいます。保護観察所では、関係機関と連携しながら、こういった方々が地域で生活できるよう支えていく体制を引き続き構築していきたいと考えています。

5 編集後記



（更生保護マスコットキャラクターホゴちゃん・サラちゃん）

今回は、医療法人養和会の先進的な取組みを御紹介いたしました。自薦他薦問わず、様々な取組みに関する情報提供をお待ちしています。

また、当庁としましては、医療観察制度の普及啓発に取り組んでいます。各事業所等に伺い、制度説明等をさせていただき取組みを行っていますので、お申し込みをお待ちしております。